

言心先生の「中国便り」

残酷な選択問題

今年の6月7日、8日の二日は、中国の大学受験日である。全国で約900万人の学生が、各地で受験した。

湖南省長沙市の一人の女性受験生は、母親と一緒に受験所に向かう途中、突然、交通事故に遭遇した。彼女の母親は、高速の車にぶつけられ、10メートル先に飛ばされて、大量出血で意識不明の重体に陥った。その場で、彼女は、大変に動揺したが、救急車で母親を病院に送られた。しかし、現場の警察官と他の受験生の親族が、彼女を止め、続けて大学受験を進言した。彼女は、泣きながら、大学の入試に参加した。

次の日の中国の媒体は、このニュースを、論評を入れて報道した。論評は、彼女と進言した人を褒めるものである。しかし、ネットで、賛否両論が、激突した。賛成の論点は、彼女は医者ではな

く、一緒に病院に行っても、無駄で、やはり、大学入試をして、良い成績を自分の母親に見せてあげるの、良いと言うものである。否定の論点は、大学試験が、いくら大切でも、親の命と比べ、些細なこと、危険状態の母親を見守ることが、最も大切なことだというものである。

多分、他の国で、同じことが、起こったとしても、大きな話題にならないだろう。大多数の人は、入試を止め、親の安否を最優先と言う選択を選ぶと思う。今年の大学試験が、出来なくても、来年

も出来る。しかし、自分を育て来た親に、万が一のことが起こったら、本当に、取り返しのつかないことである。

経済が高速発展の中国には、色々の矛盾と過ちが存在している。例えば、物の優先順位が混乱している事である。金銭・地位・学歴等の計れる事が、生命・人権・人情等の一寸抽象的な事より、遥かに優位になっている事は、否定し難い事実である。理念・理想が欠けるという事は、必ず社会道德の欠如と繋がる。これは、現在の中国で、官僚腐敗、毒食品横行、幼児売買、手抜き工事等の醜悪な社会現象の源であることだと思う。

ある学者は、今回の事故は、大学入試の試験場の外での、もう一つの大きな試験を世の中の人々の前に与えたという。全ての人は、難しい選択問題に直面する。もし、同じことが、自分の目の前に発生したら、黙って試験場に入るか？或いは、母親を見守って、病院に行くか？これは、自分の良心によって、深く再思考する有意義な機会かもしれない。

見方いろいろ・世界から「中国より」

